「FACTA」の気になる“意外な役員”

同誌の取締役役員は３人。１人はご存知、代表取締役社長の阿部重夫氏、そして同じく代取役員の宮島巌氏、そしてもう一人は、意外なことにヒラ取の児玉博氏となっている。

この児玉という男。実は、なかなか面白い人物なのだ。
元「フライデー」、「週刊現代」に出入りしていたフリーの記者で、鈴木章一氏に可愛がられていた。ところが、「週刊現代」の取材で、ある労組を直撃したのだが、ネタは不正流用。のちに事件がハジケ、新聞各紙他、メディアは一斉にその事件を報じた。ところが、いち早く取材していたはずの「週刊現代」がなぜか、一切報じない。そのわけは後に明らかになった。

逮捕された主犯格が、警察の取り調べに対して以下のように供述。児玉記者に「報道を止めてくれるよう」頼んで、「300 万円をキャッシュで手渡し」し、「頻繁に銀座のクラブで接待していた」。これは公判でも検察側から読み上げられた。

当然、児玉氏は講談社から追放される身となったのである。以下、日テレの杉本報道局長を頼って日テレで使ってもらったり、文春でデータマン記者を１、２か月やったり。ただ、人懐っこい男で、何かとアンダーグランドで話題となる熊取谷稔には昔から可愛がられていて、彼は熊取谷が企業を責める時の先兵として動いている。

熊取谷氏は、リクルート事件の時「ＮＴＴ真藤恒前会長」の側近を務めていた。俳優の押尾が銀座の高級クラブのホステスであった田中香織さんを見殺しにした事件で、押尾の保釈金 400 万円巡って、森喜郎⇒森佑喜｛息子＝故人｝⇒熊取谷という流れで名前が取りざたされたこともあった。いずれにしても熊取谷は、フイクサーとして経済事件によく名前が出てきていたダーデーな人物である。こんな男が取締役とは(笑)。

「FACTA」は“取や屋”雑誌と言われても仕方がない。

ちなみにどうでもいい話を１つ付け加えると、「児玉は“バツ２”で、妻とのなれ初めは、児玉が週刊現代の取材で札幌出張に行った時、すすき野のクラブでホステスをしていたのが彼女で、そのままホテルに持ち帰りし、一週間後、彼女が児玉を追って上京してきたのが縁でした。当時、児玉は妻子もち、しかも妻は 10 歳上で、彼は妻に食わせてもらっているヒモ。大変な修羅場でした(笑)」と彼を良く知るジャーナリストのK氏は語っていた。